

【概要】

(1) はじめに

科学技術・学術政策研究所(以下 NISTEP)では、科学技術に関する国民意識データを収集し、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資することを目的として、2009年度から、「科学技術に関する国民意識調査」を実施している。

本2023年度調査(2023年12月調査)は、15歳から69歳までの男女合計6,600人にインターネットを使って調査したものである。

(2) 調査の概要

本調査は、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資する基礎データの提供を目的として、2009年度以来、NISTEPが科学技術に関する国民意識を把握するために継続的に実施している。

1) 調査対象

インターネット調査会社にモニター回答者として登録している者である。

2) 調査期間及び調査方法

2023年12月にインターネットによって実施

サンプル数はN=6,600で、回答者年齢は15-69歳、サンプリングの層化として、男女同数(男性3,300名、女性3,300名)、15-19歳、20-24歳、25-29歳…60-64歳、65-69歳で同数(11の年齢層、1年齢層当たり600名)とした。

3) 調査時点

2023年12月5日から12月14日にかけて実施した。

4) 調査項目

今般の調査では特に科学技術とウェルビーイングとの関係が回答者の人間関係等によりどのような影響を受けるかについて把握することが目的である。

(3) 調査結果の概要

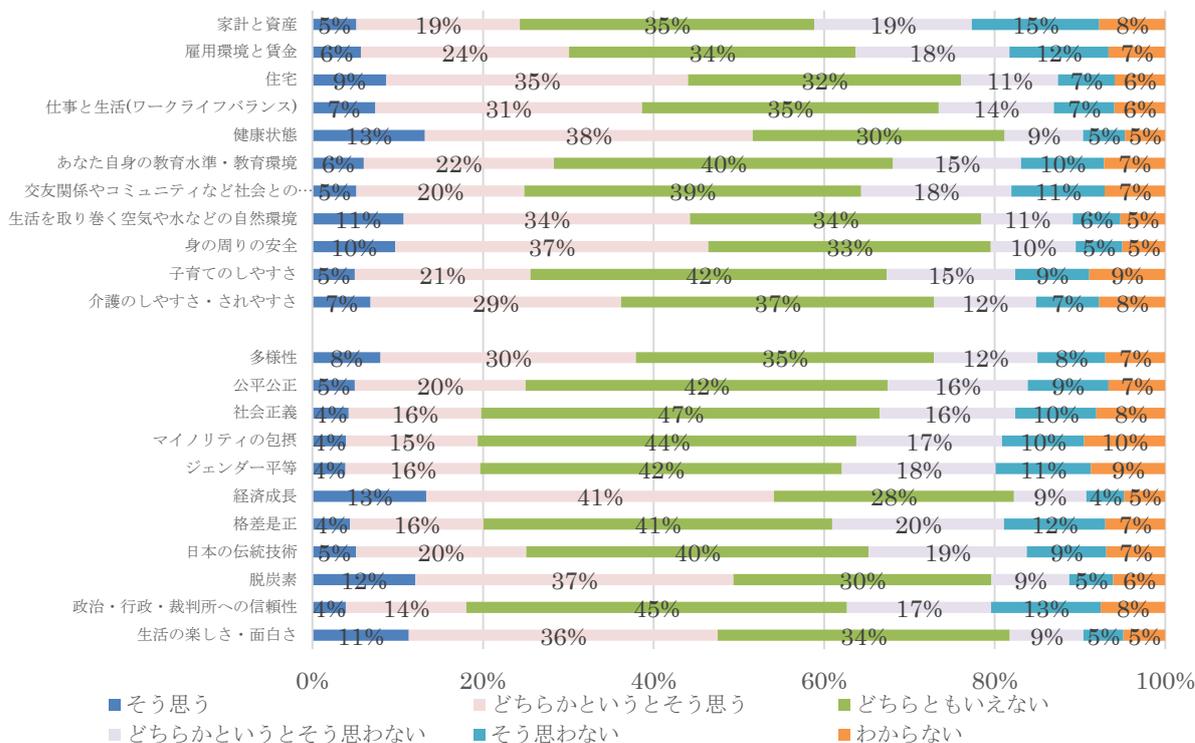
概要では、調査結果のうち、科学技術とウェルビーイングとの関係が回答者の人間関係等によって受ける影響について示すとともに、科学技術とウェルビーイングの関係以外の科学技術政策に関する意識についても紹介する。

本調査では一人ひとりの多様な幸せ(以下において「ウェルビーイング」という)をもたらす分野を、「満足度・生活の質に関する調査報告書 2022(内閣府)」^[1]において満足度が調べられている 11 分野に準拠して設定した(概要図表 1 の上段 11 分野)。さらに、NISTEP が検討し設定した 11 分野を加えた(概要図表 1 の下段 11 分野)。

1) 科学技術とウェルビーイングの関係に関する国民の意識に関する調査結果

① 科学技術の進歩が各ウェルビーイング分野の増進に繋がっているかについての国民の意識

NISTEP では 2023 年 6 月に今回調査と同様の方法にて、科学技術の進歩が上述のウェルビーイング 22 分野の増進に繋がっているか国民の意識を調べている。その結果は概要図表 1-1 に示すとおりで、「(どちらかという) そう思う」が 50%を超えるのは、健康状態、経済成長の 2 つとなった。

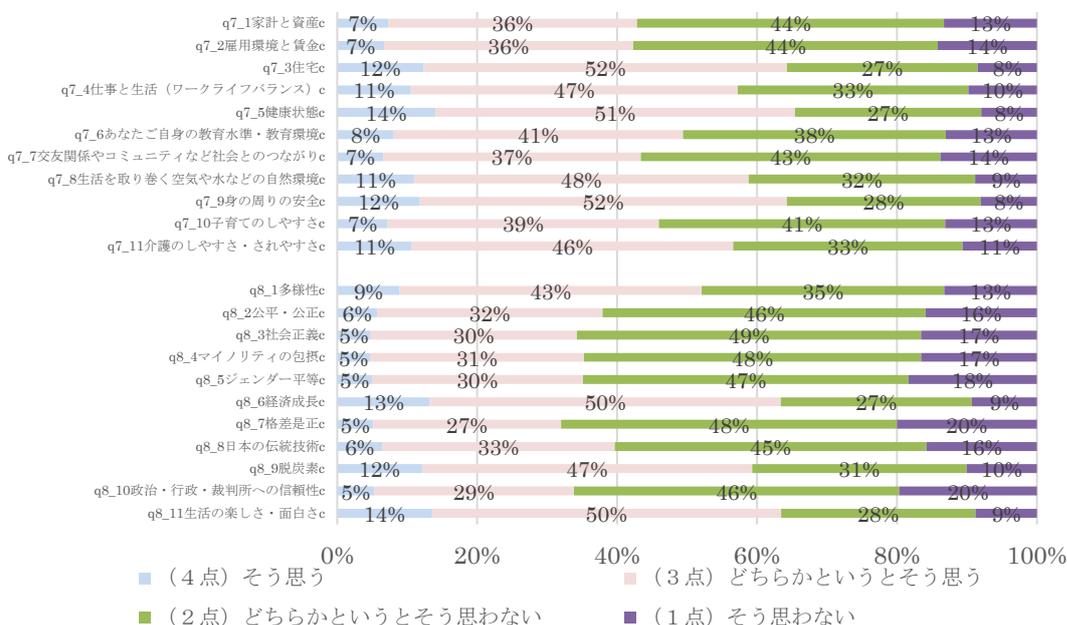


概要図表 1-1 科学技術進歩の総計比較

今回調査においても再度、科学技術の進歩がウェルビーイング 22 分野の増進に繋がっているか国民の意識を調べた。但し今回調査においては、回答の選択肢から「どちらともいえない」および「わからない」を削除し、回答が肯定寄りであるか、否定寄りであるかをはっきりさせることを試みた。その結果は概要図表 1-2 に示すとおりで、「(どちらかという) そう思う」が 60%を超えるのは、住宅、健康状態、身の回りの安全、経済成長、生活の楽しさ・面白さの 5 つとなる。

ここで概要図表 1-1 と 1-2 を比較する。今回調査では回答の選択肢から「どちらともいえない」

および「わからない」を削除している、「どちらともいえない」または「わからない」と考える回答者も、その一部は「どちらかというと思う」と回答し、残りは「どちらかというと思わない」と回答していると思われる。そこで、例えば概要図表 1-1 の「思う」、「どちらかというと思う」、「どちらともいえない」および「わからない」の回答割合を合算して、大きい方から上位 7 項目を見ると住宅、健康状態、生活を取り巻く空気や水などの自然環境、身の回りの安全、経済成長、脱炭素、生活の楽しさ・面白さ、となる。一方、概要図表 1-2 の「思う」および「どちらかというと思う」の回答割合を合算して、大きい方から上位 7 項目を見ると、やはり前述の 7 項目となる。従って、この設問に対する回答傾向は前回調査と今回調査で概ね同様であると考えられる。



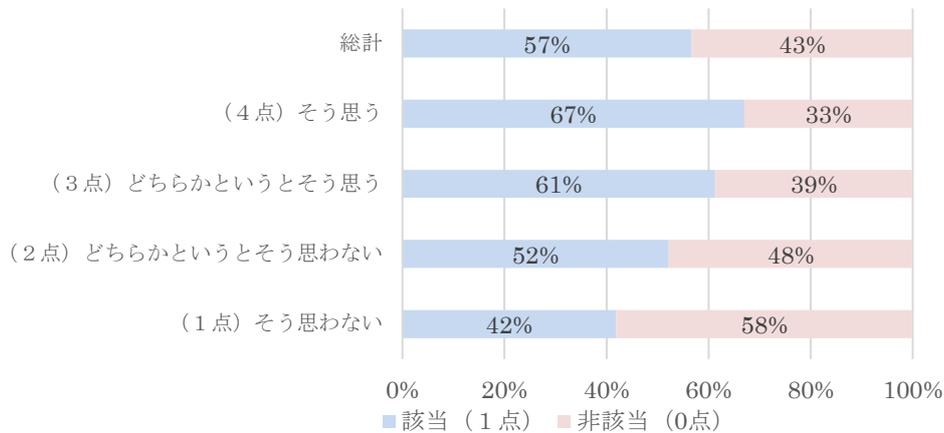
概要図表1-2 q7,q8科学技術進歩の総計比較

② 国民に関する変量・属性が各ウェルビーイング分野の増進に繋がっているかについて

本稿では、変数間の相関を、スピアマンの順位相関係数 ρ を見て調べる。この相関係数はピアソンの相関係数と同じく -1 から 1 の値を取り、絶対値が 1 に近づくにつれ、相関が強くなる性質を持っている。同時に P 値も測っている。スピアマンの順位相関係数の有意性水準は 5% で設定している。従って、P 値が 0.05 以下であれば有意に相関があると言える。

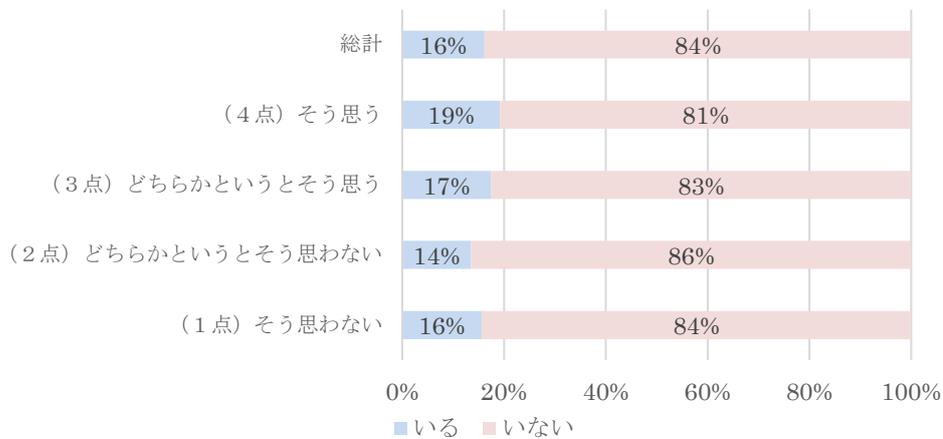
本調査では回答変量・回答者属性等をウェルビーイングの測定項目として設定しているが、これらは「満足度・生活の質に関する調査報告書 2023(内閣府)」^[1]において設定されているものに準拠した。

「父母(義父母)、祖父母(義祖父母)、きょうだい(義きょうだい)に、子育てを気軽にお願いできる」(横軸)と「科学技術の進歩が子育てのしやすさの増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関を調べると概要図表 2 となり、スピアマンの順位相関係数は 0.137(P=0.000)となり、有意な正の相関がある。



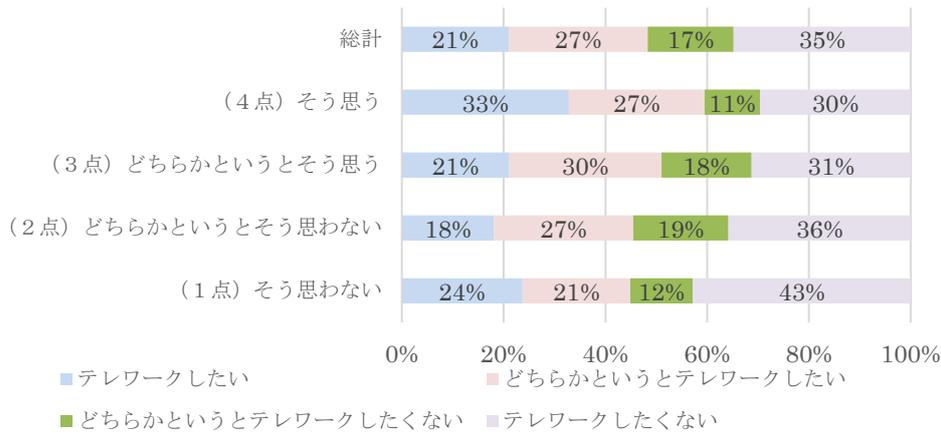
概要図表2 「父母（義父母）、祖父母（義祖父母）、きょうだい（義きょうだい）に、子育てを気軽にお願いできる」（横軸）と「科学技術の進歩が子育てのしやすさの増進に繋がっていると思う」（縦軸）の相関

「介護を必要とする父母（義父母）、祖父母（義祖父母）がいる」（横軸）と「科学技術の進歩が介護のしやすさ・されやすさの増進に繋がっていると思う」（縦軸）の相関を調べると概要図表 3 となり、スピアマンの順位相関係数は 0.047(P=0.000)となり、正の有意な相関がある。



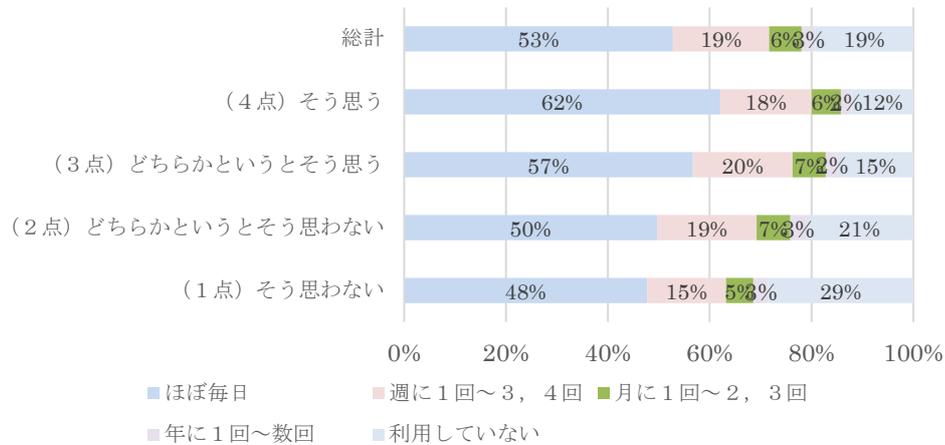
概要図表3 「介護を必要とする父母（義父母）、祖父母（義祖父母）がいる」（横軸）と「科学技術の進歩が介護のしやすさ・されやすさの増進に繋がっていると思う」（縦軸）の相関

「テレワークをしたい度合い」（横軸）と「科学技術の進歩が雇用環境と賃金の増進に繋がっていると思う」（縦軸）の相関を調べると概要図表 4 となり、スピアマンの順位相関係数は 0.077(P=0.000)となり、正の有意な相関がある。



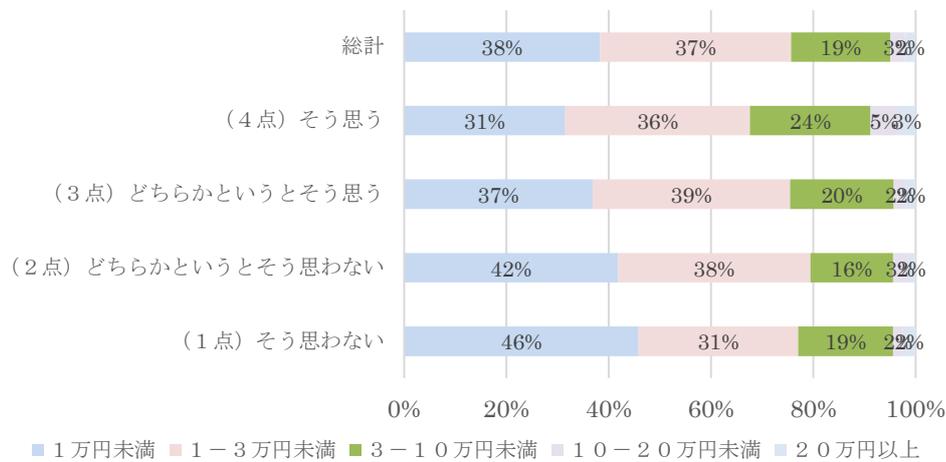
概要図表4 「テレワークをしたい度合い」(横軸)と「科学技術の進歩が雇用環境と賃金の増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関

「SNSの利用頻度」(横軸)と「科学技術の進歩が交友関係の増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関を調べると概要図表5となり、スピアマンの順位相関係数は0.110(P=0.000)となり、正の有意な相関がある。



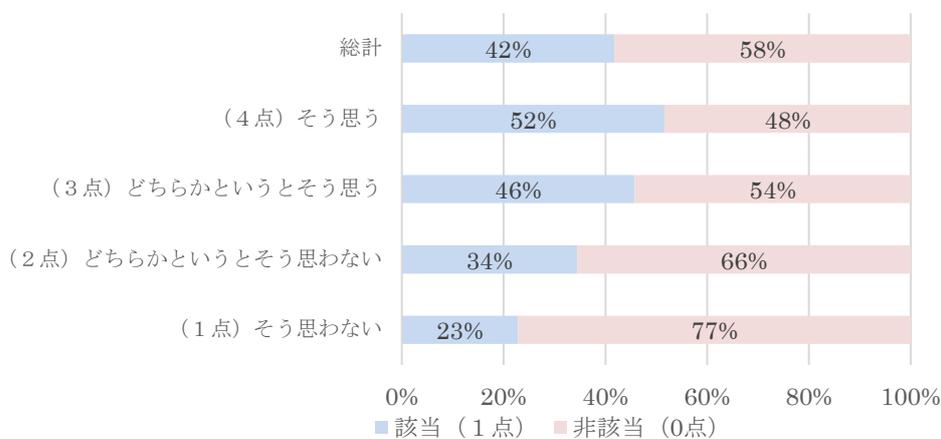
概要図表5 「SNSの利用頻度」(横軸)と「科学技術の進歩が交友関係の増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関

「毎月、あなたが趣味、生きがいのために使える金額」(横軸)と「科学技術の進歩が経済成長の増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関を調べると概要図表6となり、スピアマンの順位相関係数は0.091(P=0.000)となり、正の有意な相関がある。



概要図表6 「毎月、あなたが趣味、生きがいのために使える金額」(横軸)と「科学技術の進歩が経済成長の増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関

「日ごろ、バランスのとれた食事をしている」(横軸)と「科学技術の進歩が健康状態の増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関を調べると概要図表7となり、スピアマンの順位相関係数は0.157(P=0.000)となり、正の有意な相関がある。



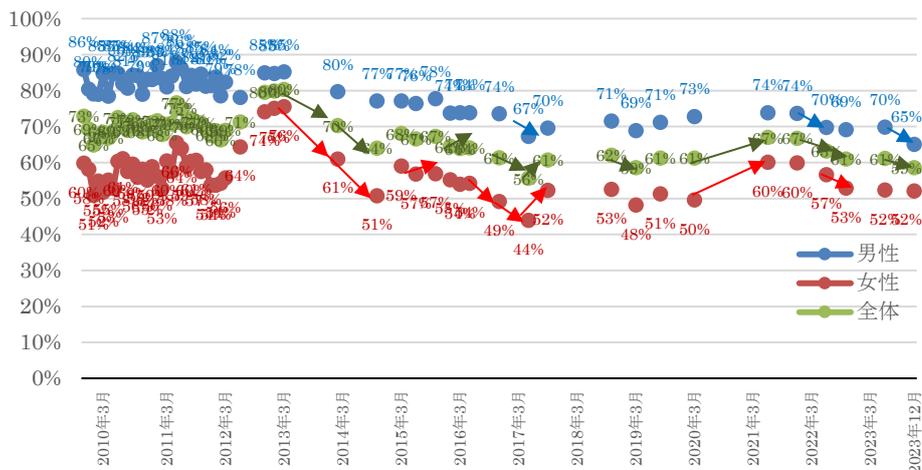
概要図表7 「日ごろ、バランスのとれた食事をしている」(横軸)と「科学技術の進歩が健康状態の増進に繋がっていると思う」(縦軸)の相関

2) 科学技術とウェルビーイングの関係以外の科学技術政策に関する国民の意識

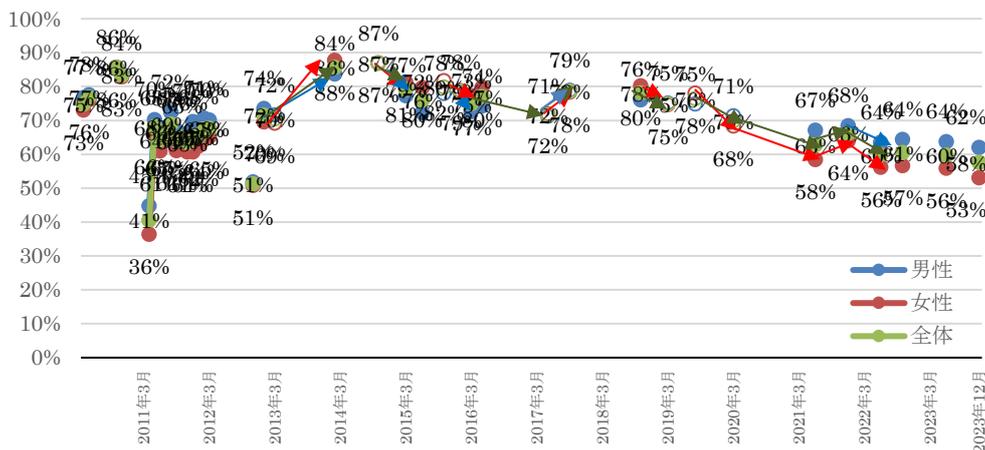
① 科学技術に対する関心・科学者への信頼度

科学技術関心度(概要図表8)は男性及び全体で有意に低下している。科学者の信頼度(概要図表9)は有意には低下しておらず概ね横ばいである。

傾向の有無の判定はカイ二乗独立性検定による。有意性水準は1%に設定。



概要図表8 科学技術関心度の性別変化¹

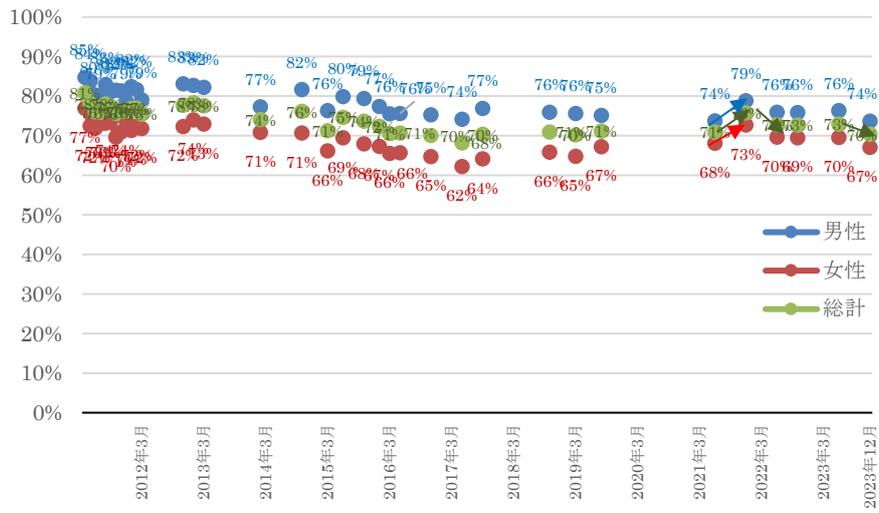


概要図表9 科学者話信頼度の性別変化

② 科学技術に対する評価

科学技術発展をプラスと回答した人の割合(概要図表 10)では総計で有意に減少している。傾向の有無の判定はカイ二乗独立性検定による。有意性水準は1%に設定。

¹ 2023年12月時点、男性 65.1%、女性 52.1%、全体 58.6%



概要図表10 科学技術発展をプラスと回答した人の割合の性別変化